

2011年11月7日

株式会社 富士経済
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 2-5 F・Kビル
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
 URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>
 広報部 03-3664-5697

菓子、スープ、育児用食品など58品目の市場を分析

- 2011年の加工食品市場調査(1) -

腹持ちの良い食品は、震災後に非常食・保存食需要を獲得 - 2011年見込 -

ビスケット・クッキー 1,430億円(前年比2.2%増)

インスタントスープ 727億円(前年比4.0%増)

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、2011年8月から29カテゴリ400品目の加工食品の国内市場について、6回に分けて調査を行っている。その第1回目の調査結果を報告書「2012年 食品マーケティング便覧 No.1」にまとめた。

この報告書では、菓子32品目、スナック菓子9品目、スープ類12品目、育児用食品3品目、ペットフード2品目の5カテゴリ58品目の国内市場動向を収載した。なお、24カテゴリ342品目の調査結果については、今後順次報告する。

<調査結果の概要>

カテゴリー	2010年	前年比	2011年見込	前年比
菓子 (32品目)	1兆1,967億円	100.1%	1兆2,025億円	100.5%
スナック菓子 (9品目)	2,851億円	102.4%	2,937億円	103.0%
スープ類 (12品目)	1,511億円	101.5%	1,556億円	103.0%

菓子

米菓、豆菓子、ナッツ類、かりんとう、ビスケット・クッキー、菓子パイ、チョコレート、などの腹持ちのよい商品やエネルギー源となる商品が東日本大震災後に非常食や保存食としての需要を獲得した。この他、米菓は2011年から米トレーサビリティ法の施行により、原料米の産地情報記入が義務化され、国産米・輸入米のどちらを使用するか選択を迫られており、メーカーの動向が注目される。

スナック菓子

市場は2006年以降拡大を続けている。2008年以降、不景気の影響で消費者が定番商品へ回帰し、ロングセラーブランドが好調となっている。定番ブランドの新フレーバーや季節フレーバーの投入によってブランド鮮度の向上に努めているが、売上への貢献度が低下しつつある。また、新規ブランドの定着が進んでいない状況にある。

スープ類

春雨スープの台頭で市場を牽引してきたカップ入りスープの需要減少により、2009年はマイナスとなった。2010年はインスタントスープのブランドリニューアル等が市場を押し上げ、スープ類全体としてもプラスに転じた。2011年は、夏場には節電の影響から空調の温度を例年より高く設定した職場が多く、温かいスープを敬遠するケースも見られたが、震災時の非常食用特需などによりプラスを維持すると見込まれる。

<注目市場>

1. ビスケット・クッキー

2010年	前年比	2011年見込	前年比
1,399億円	101.4%	1,430億円	102.2%

【包材不足で上位企業の供給滞る、代わりに下位企業が実績拡大】

2010年は、不二家「カントリーマム」などの定番ブランドの大袋商品を中心に市場が拡大した。2011年は腹持ちの良い買い置き商品として震災直後の需要を獲得した。前年同様に大袋商品も順調に推移しており、市場の拡大が見込まれる。なお、震災直後は包材・資材の調達難などから上位企業において商品休売や商品供給の滞りが見られ、下位企業の実績拡大が顕著であった。

2. チョコレート

	2010年	前年比	2011年見込	前年比
チョコレート	2,816億円	99.3%	2,829億円	100.5%
チョコレート菓子	1,321億円	102.3%	1,309億円	99.1%

チョコレート菓子は、チョコレートの内数です。

【節電で流通業は品質劣化リスク懸念も、非常食として購入動機高まる】

2010年は、猛暑により夏場溶けやすいチョコレートが敬遠され、板チョコなどの無垢チョコを中心にチョコレート市場は縮小した。一方、チョコレート菓子市場は、溶けにくさを訴求する商品などが伸び、全体が縮小する中で拡大した。

2011年は震災以降、温度管理を必要とするチョコレートは、節電気運の高まる中で品質劣化のリスクを懸念した流通業が取り扱いを敬遠する傾向が見られた。しかし、非常食としての購入動機が高まり、大袋を中心として特需が見られ、チョコレート市場は前年を上回ると見込まれる。ただし、チョコレート菓子は、上位ブランドの休売や震災直後の新商品の発売延期などにより前年を下回ると見込まれる。

3. かりんとう

2010年	前年比	2011年見込	前年比
183億円	101.7%	186億円	101.6%

【贈答用が伸び、新規参入や製造設備の増強が続く】

2008年頃から百貨店や駅ナカの商業施設などでかりんとう専門店が出店され、従来CVSや量販店を中心に展開されていたかりんとうが贈答用としても認知されるようになり、市場が活性化している。2011年は震災によって腹持ちの良い食品としての需要を獲得した。また、米菓メーカー三幸製菓の市場参入や、直営店を中心に展開している旭製菓の工場新設など、新規参入や製造設備の増強などが続いており今後も市場拡大が見込まれる。

4. ガム

2010年	前年比	2011年見込	前年比
1,133億円	98.8%	1,123億円	99.1%

【全体は縮小も、味長持ち訴求の板ガムが人気に】

2000年頃までは虫歯予防を目的としたキシリトール配合ガムが急速に拡大したが、2004年をピークに大容量タイプのボトルガムの人気やドラッグストア・量販店での低価格販売などにより、市場は縮小している。しかし、ロツテ「フィッツ」や日本クラフトフーズ「ストライド」などの味が長持ちすることを訴求した板ガムが登場したことにより市場が活性化しており、縮小は続いているものの縮小幅が低下している。

5. インスタントスープ

	2010年	前年比	2011年見込	前年比
インスタントスープ	699億円	102.0%	727億円	104.0%
カップ入りスープ	275億円	90.2%	277億円	100.7%

カップ入りスープは、インスタントスープの内数です。

【ブランドリニューアルにより市場活性化、カップ入りスープも市場を回復】

インスタントスープは、お湯を注げば完成する粉末・ブロック状のフリーズドライのスープを指す。

インスタントスープ市場は、2010年は味の素「クノール」の食スタイル提案やポッカコーポレーション「じっくりコトコトシリーズ」のブランドリニューアルなどにより活性化し、市場が拡大した。2011年には震災により保存食として需要が伸びたこともあり拡大すると見られる。

カップ入りスープ市場は食べごたえと低カロリーを訴求した春雨スープの台頭で急速に拡大していたが、ブームの沈静化とPB商品との競争激化により、2009年から2年連続で市場が縮小している。しかしパン・ショートパスタ・おこげなどが入った食べるスープとして、春雨スープ以外の商品も訴求することで市場を回復させている。

6. 缶詰スープ

2010年	前年比	2011年見込	前年比
56億円	101.8%	62億円	110.7%

【大手メーカーが販売エリア拡大により、市場を牽引】

缶詰スープは、缶入りで加熱などの調理工程を必要とするスープを指す。キャンベルジャパンを筆頭に、主にホテルブランドの商品展開が多い市場である。2010年にはキャンベルジャパンが販売エリアの拡大により、市場を押し上げた。今後も販売エリアの拡大を進めると共に、スープとしてだけでなく、ソースとしての活用などの新しい食べ方の提案を進めることで需要開拓と市場拡大に貢献すると見込まれる。

<調査対象>

菓子	米菓、豆菓子、ミックス菓子、ナッツ類、かりんとう、甘納豆、ゼリー菓子、スナック梅、レトルト素材菓子、ドライフルーツ、ビスケット・クッキー、クラッカー、プレッツェル、ウエハース菓子、マシュマロ、菓子パイ、半生ケーキ、チョコレート、チョコレート菓子、ガム、機能ガム、キャンディ類、ハード・ソフトキャンディ、ハードキャンディ、のど飴、ソフトキャンディ、チューイングキャンディ、グミキャンディ、キャラメル、口中清涼菓子、ミント系錠菓、玩具・雑貨菓子
スナック菓子	ポテトチップス、ファブリケートポテト、ポテトシューストリング、小麦系スナック、コーン系スナック、ポップコーン、ライス系スナック、その他スナック、カップ入りスナック菓子
スープ類	粉末クッキングスープ、インスタントスープ、カップ入りスープ、フリーズドライスープ、わかめスープ、レトルトスープ、中華スープ、缶詰スープ、缶入りスープ、チルドスープ、冷凍スープ、即席みそ汁
育児用食品	育児用調製粉乳、ベビーフード、ベビーフード菓子
ペットフード	ドッグフード、キャットフード

<調査方法> 富士経済専門調査員による対象企業及び関連企業・団体等への直接面接取材と文献調査

<調査期間> 2011年8月～9月

以上

資料タイトル	「2012年 食品マーケティング便覧 No.1」
体裁	A4判 247頁
価格	95,000円 (税込み99,750円)
調査・編集	富士経済 東京マーケティング本部 第一事業部 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発行所	株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/